

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

376

こども科学館運営事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費	管理経費	○
	その他		
事業区分(2)	自治事務	法定受託事務	
	その他		
会計・ 予算区分	会計	一般会計	
	款	教育費	
	項	社会教育費	
	目	こども科学館費	
	大事業	こども科学館事業	
中事業	こども科学館運営事業		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	昭和56年度	～	無し	担当課・担当課長・Tel
事業実施の根拠法令	和歌山市立こども科学館条例		関連課	学校教育課 東 康修 435-1139

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する。		こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する事業。			
事業内容		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
		①野外生物観察会 12回②学校天体観察会 5回③ミニサイエンス教室 51回④9歳までに身につけたい科学教室 22回⑤科学の原理発見教室 9回⑥プラネタリウム番組 3番組⑦自然に親しむ教室 8回⑧夏休み実習教室 1回⑨特別サイエンス 3回	①野外生物観察会 12回②学校天体観察会 1回③ミニサイエンス教室 53回④9歳までに身につけたい科学教室 20回⑤実験で発見！教室 10回⑥プラネタリウム番組 3番組⑦自然工作教室 6回⑧自由研究のススメ 2回⑨音科楽教室(コンサート含) 6回⑩	科学展示、プラネタリウム投影、自然観察や実験工作等の普及活動、科学に関する調査研究を実施する。	科学展示、プラネタリウム投影、自然観察や実験工作等の普及活動、科学に関する調査研究を実施する。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	10,792	10,273	9,831	9,601	9,966	9,467	9,815	0	9,815	0
伸び率(%)	1.9%	△0.5%	△8.9%	△6.5%	1.4%	△1.4%	△1.5%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	5,644	5,644	5,663	5,663	5,755	5,755	5,755	0	5,755
	正規職員以外	5,012	5,012	5,338	5,338	5,687	5,687	5,687	0	5,687
	小計	10,656	10,656	11,001	11,001	11,442	11,442	11,442	0	11,442
国庫支出金	0	0	0	0	2,398	2,297	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	10,792	10,273	9,831	9,601	7,568	7,170	9,815	0	9,815	0
所要人数(人)	正規職員	0.71	0.71	0.71	0.71	0.72	0.72	0.72	0.00	0.72
	正規職員以外	1.87	1.87	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	0.00	2.00
主な予算内訳	展示及びプラネタリウム保守点検3, 986千円、ソフト借上料4, 796千円(平成29年度当初)									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	普及活動開催回数	回	目標値	111	110	112	110	
			実績値	111	110	111		
			達成度(%)	100%	100%	99%	0%	
成果指標	普及活動参加者数	人	目標値	4880	4500	4500	4500	
			実績値	4278	3534	3981		
			達成度(%)	87.7%	78.5%	88.5%	0%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	普及教室は、申込者が増加し、その需要は伸びる傾向にある。普及活動参加者数の年度別の達成度が100%近くになりにくいのは、雨天中止や当日キャンセルする参加者があることも原因としてあげられる。
見直し・改善内容	普及教室の内容の精選及び開拓を進め、より充実させることで、参加者数の維持・増加につなげていく。2階展示室新装改修に伴い展示内容を改善充実させ、子供たちや市民等及び学校に向けて積極的に広報を行い、入館者の増加につなげていく。また、平成30年度にはプラネタリウムを改修した。天文教育に関しても最新鋭の機器を使って、魅力ある充実した投影及び解説を提供できるようにする。